

4月6日 皆既月食から10日後・・・

先週の4月4日には、昨年10月以来の皆既月食がありましたね。
そして、先週末、海外では多くの国がイースターでお休みでした。しかし、米国の雇用統計は週末に発表される、という、ちょっと休みづらい日程です。

皆既月食とイースター、そして雇用統計、とそれぞれ、何も関係ないように思えますが・・・実は深く関係するのです。

そもそも、皆既月食などの天体现象は、市場に影響を与える、というのが、市場関係者の中では一つの「常識的考え」になっています。
「金融占星術」などという占いの分野があるくらいですから。

例えば、昨年10月8日の皆既月食のときには、その2週間ほど前から相場は変調をきたし、絶好調だった日経平均も16000円台を陥落し、月食が終わった9日後には、15000円台さえキープできなくなりました。

ちなみにこのとき、反発を開始したのは、月食後10日目です。

こんな経験が、つい最近ですから、相場には警戒感が漂っていました。実際、今回も少し相場に変調が出始めていました。上がるべき時にあがらない、ということが何日かあったのです。

そしてイースター休暇で気が抜けているところへ、雇用統計は異常値が出てしまいました。予想の雇用増加数が24万人台だったのに対し、発表は12万人台だったのです！

為替は118円台へ。

今回も、月食後、10日間はおとなしくしているべきなのでしょうか・・・？